

東日本大震災における石巻専修大学の活動について

(1) 施設提供の事業

震災時における施設提供

・避難所

使用用途：一般住民及び本学学生の避難場所（最大約 1、200 人）

期間：3月 11 日～4月 28 日

施設：4号館、本館 2 階

・ヘリポート

使用用途：災害時の救助・救護活動、緊急物資の輸送等にヘリポート

期間：3月 11 日～

施設：多目的グラウンド

・石巻市社会福祉協議会、災害ボランティアセンター、復興支援協議会

使用用途：本部、物資保管倉庫、ボランティア宿营地、駐車場

期間：3月 15 日～未定

施設：5号館 1 階、雨天体育場、全天候型陸上競技場、第 1・2 学生駐車場

・日本赤十字社救護所

使用用途：石巻日赤病院での受入れが困難な患者等の搬送先

期間：3月 15 日～4月 11 日

施設：体育館（体育室 1・2）

・自衛隊の宿营地

使用用途：自衛隊の宿营地、通信基地

期間：3月 15 日～5月 10 日

施設：多目的グラウンド

・石巻赤十字看護専門学校

使用用途：授業教室他として

期間：平成 23 年 4 月 11 日～平成 24 年 3 月 31 日

施設：2号館 2 階

3 階（3 教室、準備室）

・宮城県合同庁舎・東部地方振興事務所、他

使用用途：石巻市に所在する県の地方機関の事務室

期間：平成 23 年 4 月 7 日～9月 30 日

施設：体育館（アリーナ、体育室 3）、駐車場

・NTT 非常用衛星電話所

使用用途：避難者の通信手段として

期間：平成 23 年 3 月 17 日～5 月 20 日

施設：本館中庭前

災害時直後の石巻専修大学教職員・学生による救助支援活動の状況

石巻専修大学 避難者誘導（約 60 名）

住吉小学校での救助活動（約 10～15 名）

住吉中学校（2 名×3/11～4/28）

石巻高校（1 名）

石巻専修大学 4 号館（1 名×3/11～4/28）・読み聞かせ（3 名）

個人申請によるボランティアセンター登録（調査中） 他

避難所への炊き出し・イベント等への協力

- ・3/19 吉野家による炊き出し、大学中庭の施設提供・設営・広報等協力
- ・3/30 そば居酒屋「北前そば高田屋」による炊き出し、学生食堂の施設提供・設営・広報等協力
- ・4/3 居酒屋「一家（いちや）」による炊き出し、学生食堂の施設提供・設営・広報等協力
- ・4/12 青森県の NPO 法人「菜の花トラスト in 横浜町」による炊き出しとプチコンサート、学生食堂の施設提供・設営・広報等協力
- ・4/18 KINA & KALANI（キナ・アンド・カラニ）コンサート、森口記念館の施設提供・設営・広報等協力
- ・4/21 落語家の三遊亭京楽さんの独演会、森口記念館の施設提供・設営・広報等協力
- 復旧・復興に関連した施設提供
- ・5/29 宮城からの報告製作委員会による「発足会」、授業教室の施設提供
- ・6/5 宮城県サッカー協会による「サッカースクール」、グラウンドの施設提供
- ・6/18 石巻市による「石巻市合同慰霊祭」、本学駐車場の施設提供
- ・7/17 宮城県震災復興・企画部による「宮城県震災復興計画県民説明会」、5 号館の施設提供・準備等
- ・7/23、24 TBC 東北放送との協力による『TBC 夏祭り 2011 絆みやぎ” Smile Again ! 』、大学敷地の施設提供、地域社会への復興・復旧に貢献として出展協力
- ・7/26NGO ピースポートによる『乙武洋匡氏の特別授業』、森口記念館の施設提供・準備等
- ・7/28 石巻市出身のクラリネット奏者宮城幸奈さんによる『クラシック室内楽コンサート』、5 号館学生ホールの施設提供・準備等
- ・8/13、14 宮城県石巻西高等学校「宮城県吹奏楽連盟加盟の被災団体支援企画」、森口記念館の施設提供・準備等
- ・8/20、21 専修大学卒業生「石巻発 東北復興応援プロジェクト」、森口記念館・授業教室他の施設提供・準備等
- ・9/11 仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会による『マイタウンコンサート in 石巻』、5 号館学生ホールの施設提供・準備等

- ・関連団体からの要望に応じ、施設提供の協力体制を構築

(2) 共創研究センターの事業

大学と地域自治体や企業とが“共に創る”をキーワードに緊密に連携し、研究プロジェクトを企画するとともに推進して石巻地域を活力ある街にすることを旨とする。

- ・専修大学社会関係資本研究センターの「復旧・復興・再生への“絆と連携”」開催への調査協力
- ・地域安全学会の「東日本大震災に関わる防災視察調査」への調査協力
- 研究プロジェクト（石巻市との連携による主な事業）
- ・石巻専修大学・東日本大震災デジタルアーカイブ制作のための調査研究：研究助成額 40 万円
- ・牡鹿半島に生息するニホンジカの北上ルートの解明：研究助成額 90 万円
- ・石巻地域における東日本大震災後の教育および教育支援に関する調査研究：研究助成額 100 万円
- ・換金作物による農地の塩害および重金属汚染の除去ならびに農家の収入確保に関する研究：研究助成額 40 万円
- ・東日本大震災の被災地石巻圏における復興初期のボランティア・ツーリズムの円滑な実施のための条件の研究：研究助成額 40 万円
- ・東日本大震災の津波による自動車災害の発生状況調査：研究助成額 120 万円
- ・石巻ボランティア情報センターの設立・運営による石巻市復興支援の実証的研究：研究助成額 125 万円
- ・生活活動量を基軸とした健康介入プログラムが石巻市高齢者の健康管理度と自己効力感に与える影響：研究助成額 62 万円
- ・有用海産微細藻類の大量培養に関する応用研究：研究助成額 100 万円
- ・エンジョイ・スーパーサイエンス
- サテライトキャンパス企画（石巻市との連携による主な事業）
- ・復興活動の関係者の状況報告と意見交換とを目的とした“共生プラザ”の開催

(3) 大学開放センターの事業

- ・6/10NPO 法人テレコム協議会から整備済中古ノートパソコン 30 台の寄贈を受け被災学生などに貸与。
- ・6/24 大崎ものづくりネットワーク協議会への参加（復興支援等の情報提供）
- ・7/19 石巻専修大学とアメリカ大使館との共催により、地域住民・ボランティア・学生・教職員を対象に講演会「災害復興における地域コミュニティの役割：ダニエル・アルドリッチ氏 パデュー大学（米国インディアナ州）政治学部准教授」を開催：参加者 150 人
- ・宮城県教育庁の受託事業の一環として、みやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座“復興の道標”」を開催し、石巻圏域で数少ない生涯学習の場を提供、9/22～10/27(6回)木曜夜7時～8時30分、参加者の募集を開始。
- ・サンファン館を会場に、宇宙航空研究開発機構、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館、鉄道博物館、専修大学や東北大学等の協力のもと、「青少年のための科学の祭典石巻大会『みらいへの道標』」を開催し、子どもたちの学習意

欲の向上、今年度は防災教育・ボランティア教育への動機づけとなる学習の場としても提供

- ・BHN テレコム支援協議会の「石巻市から被災地における情報インフラの整備」への協力

(4) 経営学部「地域活性化研究会」の事業

- ・経営学部「地域活性化研究会」(構成員は経営学部教員)はこの地域の震災からの復旧・復興に貢献することを目的として、実態調査、関係機関などへの提言、問題解決のためのプロジェクトの検討を始めた。
- ・東日本大震災の被災地石巻圏における復興初期の観光の可能性：復興初期の段階においても観光業が果たせる役割を研究。
- ・産学連携による水産復興ソリューションの開発：水産加工食品の OEM 生産に向けたマッチングや復興ブランドの開発、販路開拓支援など、石巻地域の水産加工会社と連携しながら具体的な産業復興策について研究支援。
- ・まちづくり懇話会：情報や知識を相互に共有・学習し、それらを石巻地域の「まちづくり」に実践したり、あるいは各方面に情報発信したりする場。テーマを生活と観光のまちづくりを柱に、歴史・文化・食・物産・産業・コミュニティなど「まちづくり」に関する問題を幅広く取り上げる。
- ・東日本大震災からの復旧・復興に貢献できることを願って地域住民からの意見あるいは要望を募集している

(5) 東日本大震災に係る修学支援

- ・震災による公共交通機関(JR 仙石線)の不通対策として通学支援バスの運行(修学が困難となった本学学生を対象):乗車人数 20,000 名以上
- ・震災により修学が困難となった本学学生、高等教育への進学を望む受験生を対象にした 2 年間の学費減免の特別措置を講じる:平成 23 年度は約 480 人以上を対象
- ・震災により修学が困難となった高等教育への進学を望む受験生を対象にした 4 年間の学費減免の特別措置を講じる入試制度(スカラシップ入試)を導入
- ・震災から 1 か月が経過した事に伴い、被災した地域を含め東北 6 県の会員保護者を対象に、石巻圏域の状況・大学の状況について説明。(平成 23 年度石巻専修大学育友会「臨時支部懇談会」)

(6) 地域課題解決に向けた研究活動

IS 奨学研究員(石巻信用金庫からの若手研究者向け研究助成)

- ・ヒラメ無眼側体色異常の発現機序解明および同防除法の検討:研究助成額 15 万円
- ・細胞性粘菌 *Dictyostelium discoideum* の RNA 結合性タンパク質 DiaA の分子遺伝学的解析:研究助成額 35 万円
- ・3D プリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作に関する研究:研究助成額 50 万円

IK 地域研究員(石巻地域高等教育事業団からの研究助成)

- ・仮設住宅に居住する買い物弱者に対する地域商店街・地域事業者のサービス創出に関する研究:研究助成額 50 万円
- ・石巻地区被災体験アーカイブ化と復興まちづくりに関する研究:研究助成額 50 万円

その他

- ・石巻専修大学が被災地域にあることで、石巻圏域の長期的な復興・復旧に繋がる活動（研究・ゼミの活動が被災地であること、学生が地域活動に参加）の発信源となる。

(7) 外部機関との連携協力

- ・専修大学校友会愛知県支部との連携協力による被災地教育機関への復興・復旧支援体制の構築
- ・国際生命科学研究機構との連携協力による被災地教育機関への大規模食品支援体制の構築

(8) その他

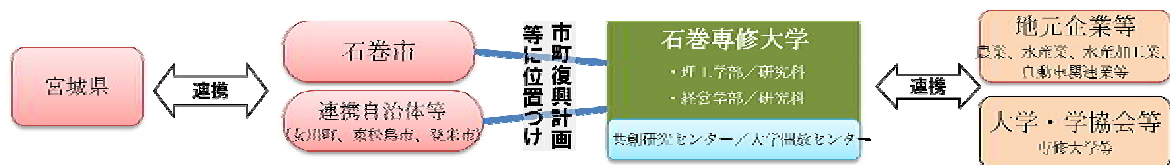
- ・4/2～4/22「こどもの絵本の庭（臨時絵本図書館）」を開催：本学に避難している児童に対して、大学図書館所蔵の絵本閲覧・読み聞かせを行った。（企画：石巻専修大学教育会教科研究部会）
- ・5/11 石巻専修大学の学生によるボランティア活動の説明会（大学生がボランティアに携わる事の重要性を示唆・子供支援や市内清掃等）を開催：30人が参加
- ・5/12 教職員を対象としたセミナー「震災後の学生支援について」（震災後の授業再開にあたり、学生に対する接し方、注意事項等の具体的な対応）を開催：約100人が参加
- ・6/24 大阪青年会議所から搬送された支援物資を石巻地区の幼稚園・保育所、小・中・高校に届けた：20人が協力
- ・7/17 吹奏楽研究会（シンフォニック・ウインド・オーケストラ）が避難所となっている稲井公民館で慰問コンサートを開催：15人が参加
- ・大阪青年会議所と石巻地域の教育機関の支援を行う「合意書」を締結
- ・ドイツ連邦共和国ニーダーザクセン州ヴォルフスブルク市他との連携協力による被災地教育機関への復興・復旧支援体制の構築
- ・震災前からの連携の状況・協力体制を継続、要望に応じた協力体制の構築

復興共生プロジェクトについて

- ・石巻専修大学では3/30に坂田学長の下「復興共生プロジェクト」を立ち上げ、従来から本学が取り組んでいる事業（教育・研究・地域貢献活動等）震災直後からの事業、復興・復旧にかかわる事業、防災・減災にかかわる事業など「復興共生プロジェクト」として取りまとめている。今後、被災地にある大学が中長期的に取り組むべき事業を展開し、復興・復旧の状況に応じ発展させる。
- ・本学として震災復興に関わる事業・取組み、震災直後からの対応、学外からの協力要請等を踏まえ、図の概略のとおり、中長期的に発展していく復興共生プロジェクトを計画しています。現在、学長、共創研究センター長、大学開放センター長の間で検討・調整を行っています
- ・社会知性の開発を理念（学校法人専修大学 21 世紀ビジョン）とし、地域及び国際社会の発展へ寄与することを目的としている。石巻専修大学は石巻圏域の協力の下に開学したこともあり、石巻を拠点にした地球的な視点で地域の持続的な発展に貢献していく。

2011/06/20

復興共生プロジェクトのイメージ



被災地の最前線で活動する石巻専修大学が地域復興のセンターとなり、地域とともに復興を目指す

基本的考え方

- 被災地域の防災と復興に関わる事業を行い、これを通じて石巻専修大学の研究と教育の高度化を図る
- 実績があるプロジェクトや震災復旧関連事業からスタートし、中長期的視点で発展させる
- 歴史や文化の背景を担ったコミュニティの復興と、復興を担う人材の育成を目指す
- 学内に共同研究拠点を設置し、学外研究者・自治体・企業・地域関係者等が参画する共同研究プロジェクトとして実施
- 各プロジェクト期間は5年以内を基本とし、ニーズに応じて継続的に見直し